

令和5年度血液製剤使用適正化説明会
令和6年1月30日

令和5年度血液製剤の適正使用 推進に向けた実態調査報告

宮城県合同輸血療法委員会事務局

対象期間内の輸血用血液製剤供給施設数

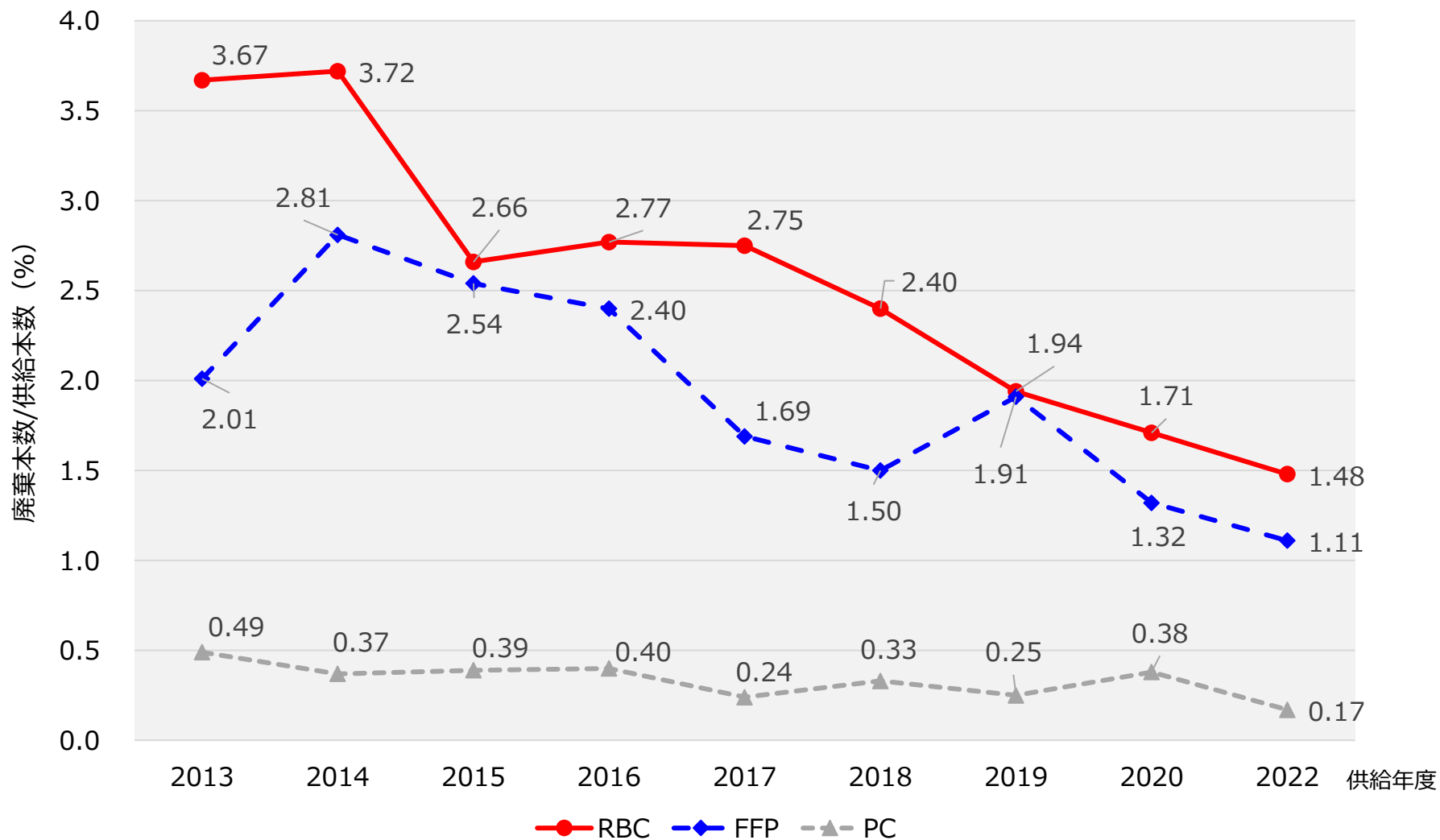
119施設

回答率 59.7% (71施設)

継続した御協力に感謝いたします。



① 血液製剤の廃棄率

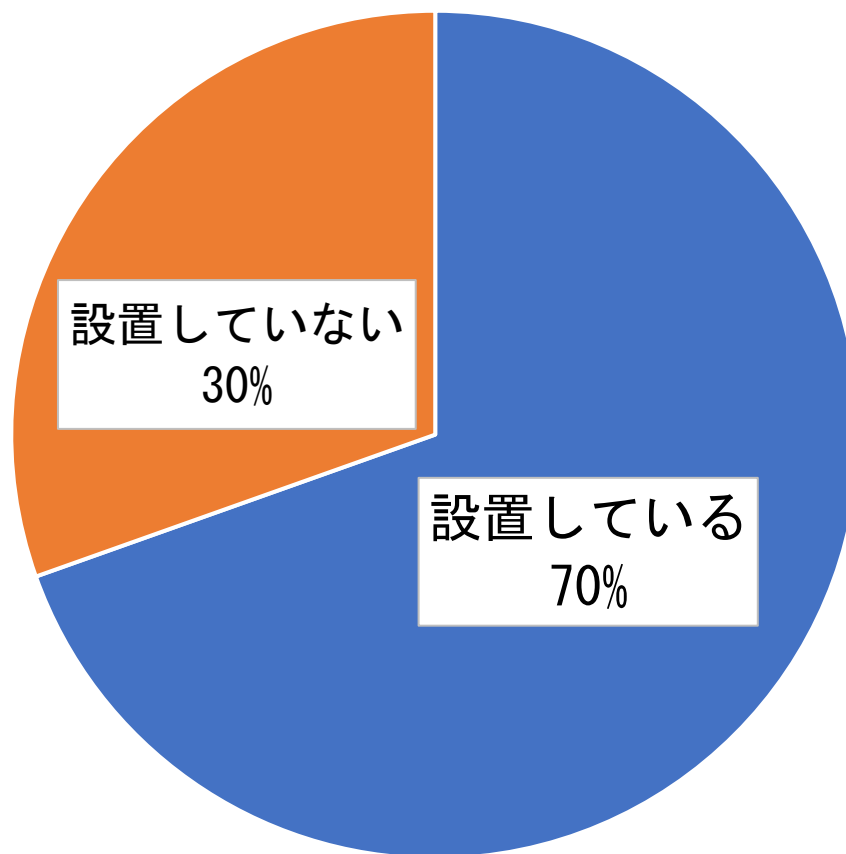


② 血液製剤の院内在庫数

(本数)

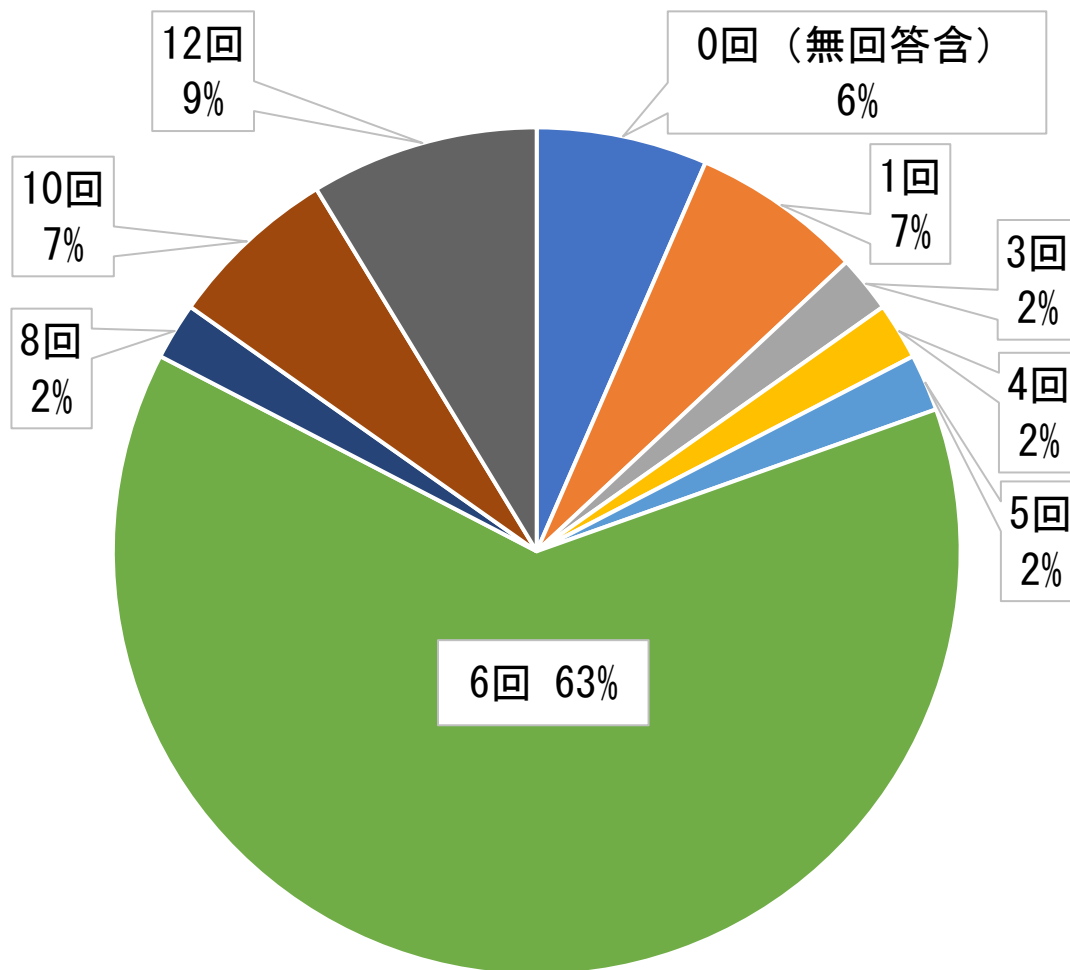
2022年度 供給実績 順位	医療機関名	Ir-RBC-LR1				Ir-RBC-LR 2				FFP-LR120				FFP-LR240				FFP-LR480			
		A	O	B	AB	A	O	B	AB	A	O	B	AB	A	O	B	AB	A	O	B	AB
1						20	20	10	2					20	20	20	20	1	0	0	0
2						7	10	4	2					2	2	2	5	2	2	2	2
3						5	5	3	1					5	5	5	5				
4						5	5	2	2					5	5	5	5				
5						4	5	3	1					5	5	5	5				
6						12	12	7	3					10	10	6	6				
7						3	3	2	0												
8						1	1	1	1	2	2	2	2	4	4	4	4				
11						2	2	0	0					2	2	2	2				
13						3	3	2	1					0	0	0	3				
15						0	2	0	0												
16						4	4	2	2					2	2	2	2				
17						2	3	0	0					0	0	0	3				
19						2	2	1	0												
22						0	2	0	0					0	0	0	2				
23						1	1	0	0												
25						1	1	1	0												
26						2	2	0	0												
41						0	0	1	0												
60						0	2	0	0					0	0	0	2				

③ 院内輸血療法委員会設置状況



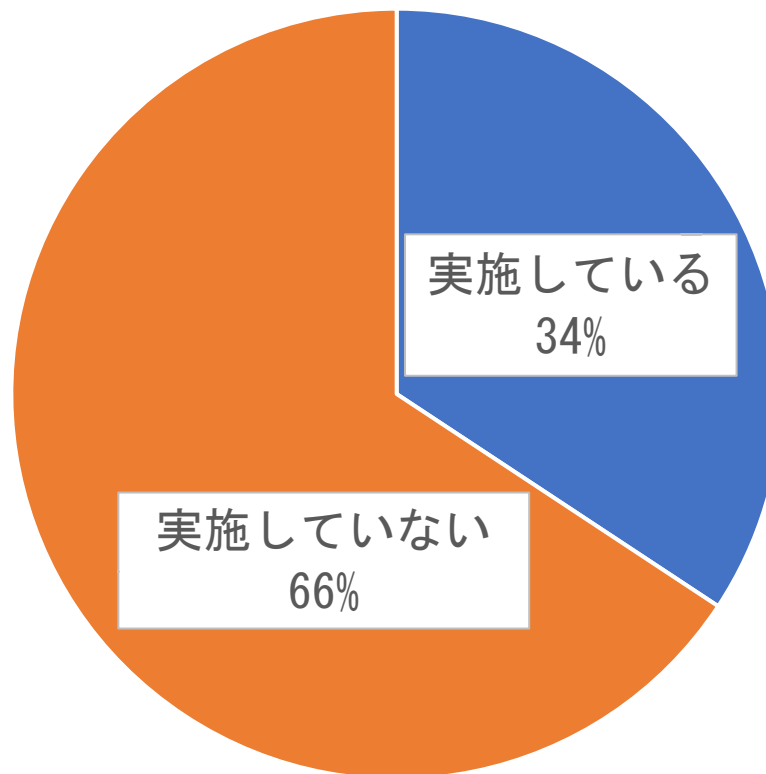
供給量が年間1000単位を超える全ての施設で設置されていたが、400～800単位の3施設が設置していない。

④ 院内輸血療法委員会開催回数



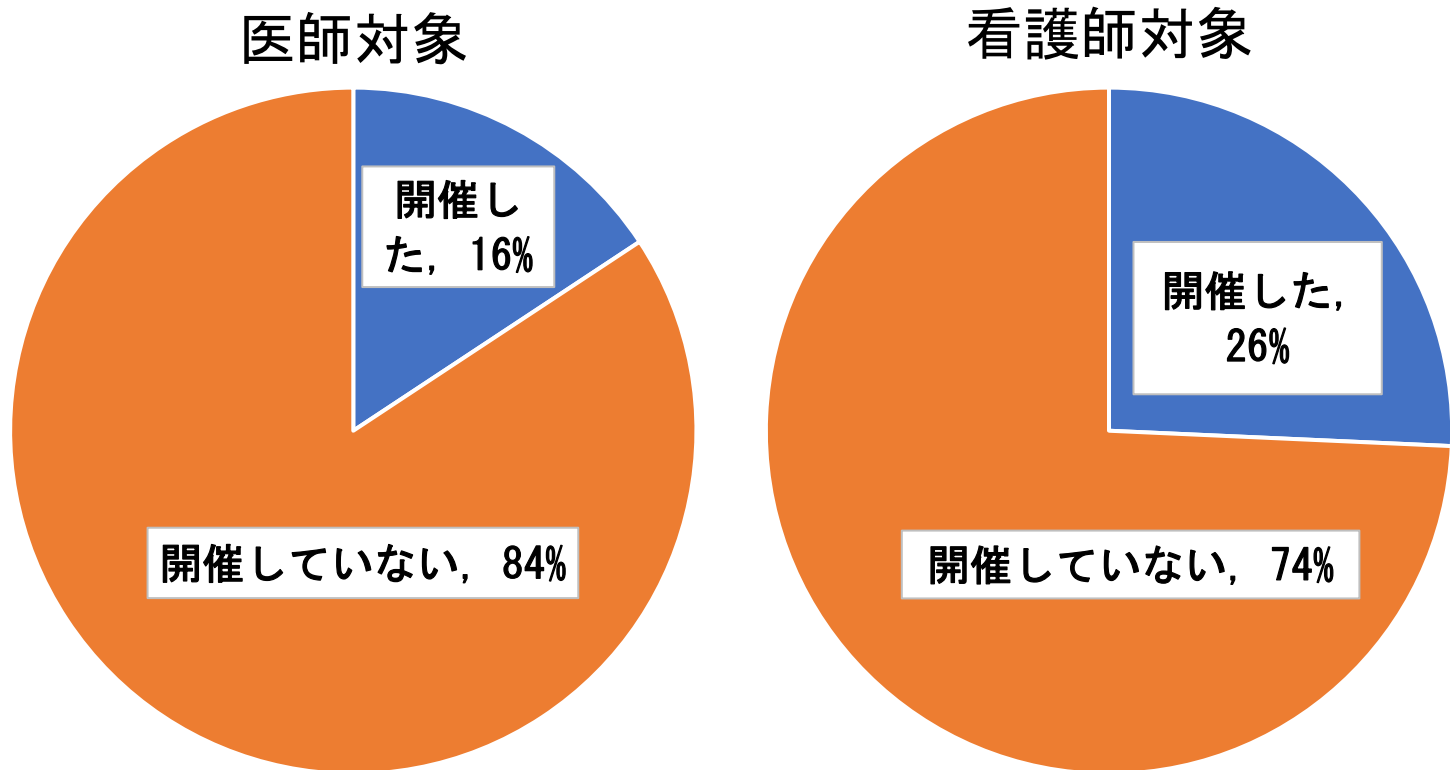
年間6回以上開催している施設は、全体の81%である。

⑤ 使用済みバッグ保管



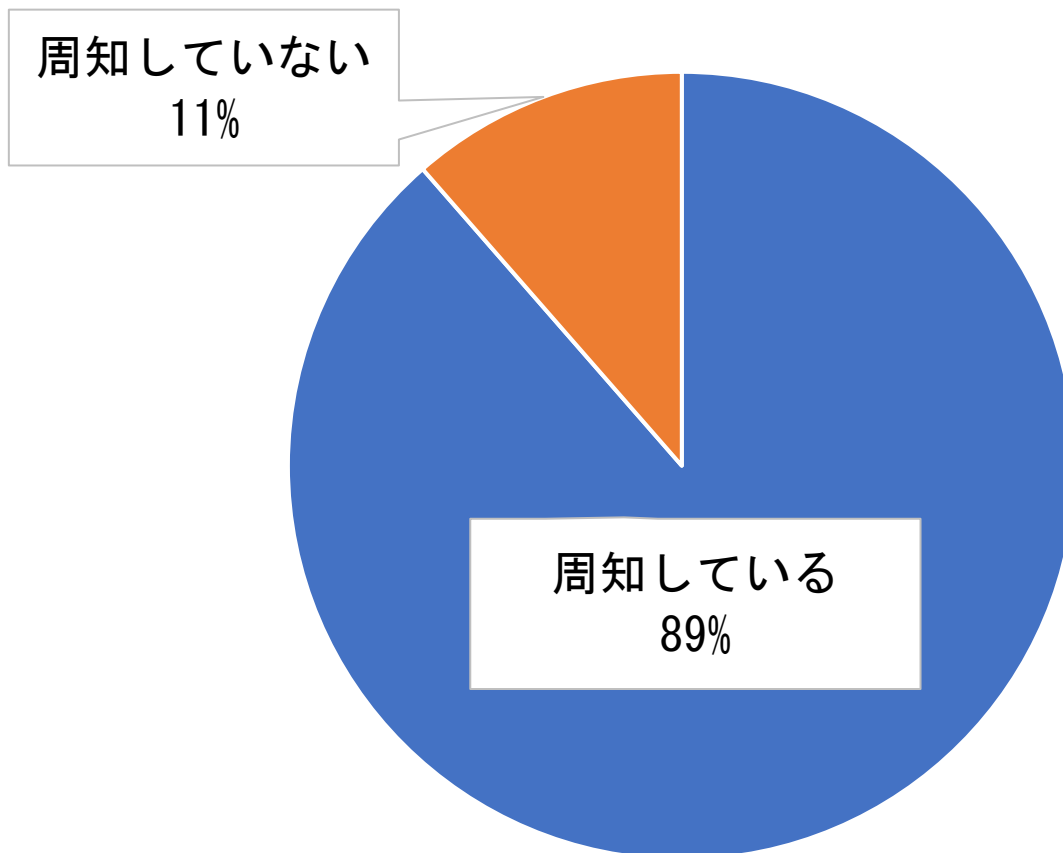
10,000単位以上供給の3施設において、PCのみ使用済みバッグ保管を行っていた。

⑥ 血液製剤の取り扱いや安全適正な輸血、使用指針等の浸透を図る、院内研修会は実施しましたか。



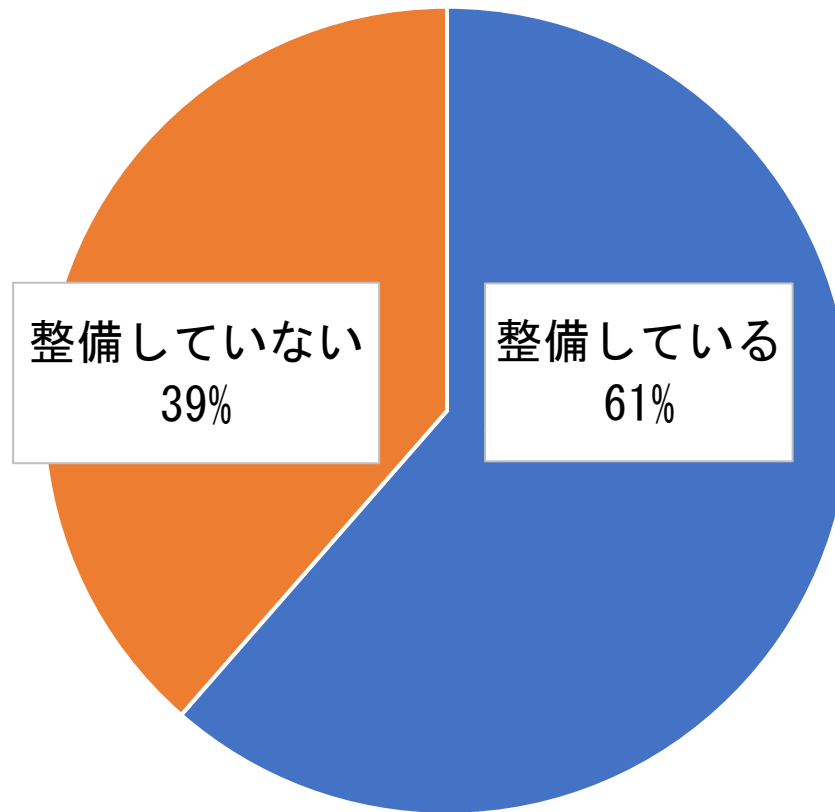
院内研修会開催回数は、医師及び看護師対象において、ほとんどが年1回であった。

⑦ 輸血の指針改訂や、新たな輸血情報の周知は行なっていますか。

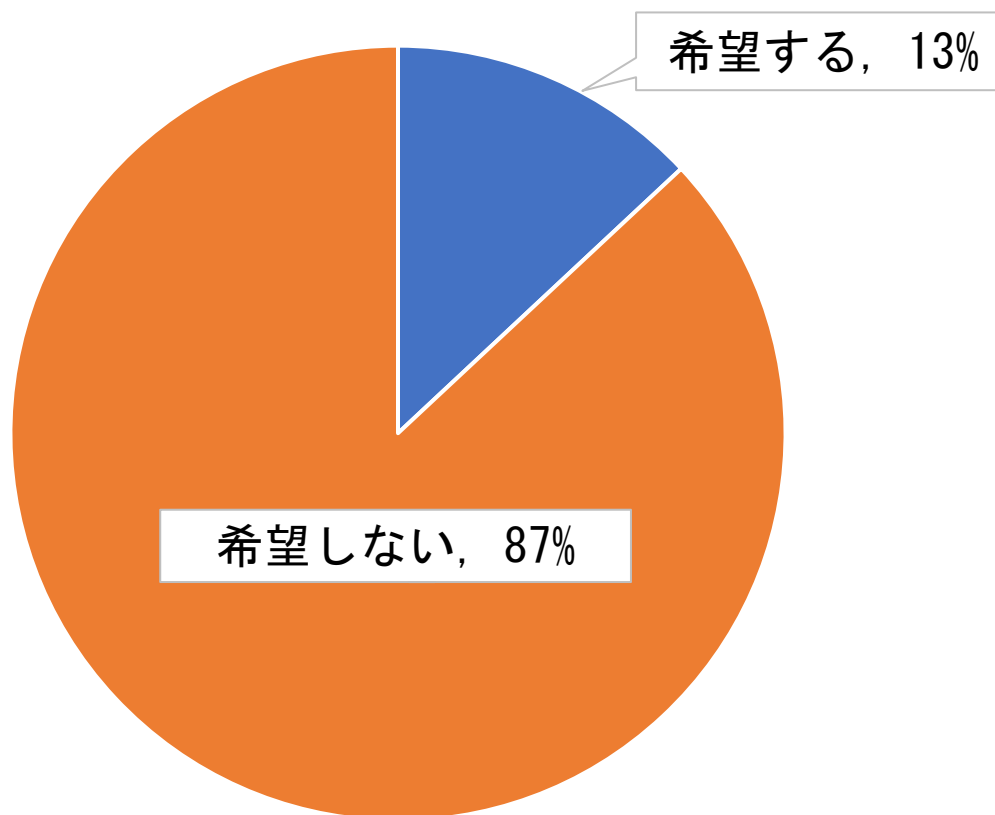


紙面で周知しているだけでなく、院内の電子媒体、オリエンテーション時、院内の勉強会で周知している施設が多い。

- ⑧ 重篤な副作用発生時の対応方法、緊急連絡方法を、文書化して輸血実施場所に整備していますか。



- ⑨ 日本輸血・細胞治療学会認定医ならびに認定看護師による出張講演会のご要望についてお伺いいたします。



実態調査のまとめ

- 適正使用の原点でもある廃棄本数、廃棄率の低下には、さらなる個々の施設事情を確認し、支援方法を検討する必要がある。
- 赤血球製剤の有効期間延長により、使用量の多い医療機関では在庫数の見直しを行っていた。
- 院内輸血療法委員会は70%の施設では設置されていたが、特に血液製剤使用量が400～800単位の未設置3施設には強く働き掛ける必要がある。
- 宮城県合同輸血療法委員会として、出張後援会を希望する9施設には対応を検討したい。